

## 「若手交流会」開催のお知らせ

政治経済学・経済史学会における若手研究者の学会活動を活性化するため、秋季学術大会にあわせて以下の要領で「若手交流会」を開催します。若手研究者の方々をはじめ、会員各位の幅広い参加を呼びかけます。

研究委員長 矢後和彦

【日 時】 2017年10月13日(金) 17時00分～18時50分

【場 所】 大阪商業大学 6号館 641教室

【テーマ】 史料調査とその原資

【ゲスト】 矢後和彦(早稲田大学)

「海外における資料調査の諸問題」

大島朋剛(兵庫県立大学)

「実践 国内史料調査の方法」

【懇親会】 居酒屋 中津江

※交流会・懇親会会場については裏面地図も参照

### <趣 旨>

歴史研究を行う者にとって、良質な史料に出会えるか否かは、死活的な重要性を持つ問題の一つです。もちろん、新しい史料を見つけなければ良い論文が書けない、というわけではありません。しかし、すでによく知られた史料を使って斬新な問題提起をするには、研究史に対する深い理解と鋭い着眼点、新たな着想を論文として具体化する技術が不可欠です。そうした研究者としての力量は、足を使って史料を探索し、これと真摯に向き合うときに、大きく成長しうるものではないでしょうか。少なくとも、新出史料に出会うことは、歴史研究に携わる者の多くが強く望む僥倖であるように思われます。

とはいえ、まだ利用されていない良質な史料にアクセスすることは、そう簡単なことではありません。むしろ、良質であるがゆえに秘匿性の高い情報を含んでおり、外部からの閲覧はしばしば困難を伴います。さらに、史料所在地が遠方にあることも少なくなく、調査費用の捻出方法も特に若手研究者にとっては悩みの種の一つでしょう。

そこで、今年度の若手交流会では、フランス金融史のみならず国際金融にも視野を広げて精力的に研究を進められてきた矢後和彦氏と、日本各地で企業文書や家文書を発掘・調査され、酒造業史研究に大きく貢献された大島朋剛氏とをお招きし、「史料調査とその原資」をテーマに討論を行います。お二方の豊富なご経験をもとに、史料調査のノウハウを会に集う皆さんと議論し、共有したいと考えています。

なお、交流会終了後に懇親会を予定しています(19時開始予定)。そちらへのご参加もお待ちしております。

問い合わせ 小島 庸平 (ykojima@e.u-tokyo.ac.jp)

【会場】



【キャンパス・マップ】 大阪商業大学 6号館 641教室

